

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【保健体育科／体育】

### 1. 対象

知的特別支援学校 高等部1年 18人

- ・知的障害の重度から軽度までおり、筋力やボディイメージなどの個人差は大きい。
- ・体を動かすことは好きな生徒が多い。
- ・前単元では、ストレッチや筋トレ、有酸素運動、ボールを使った活動など、体の動きを高める運動を行ってきた。

### 2. 単元名「新体カテスト」（全6時間）

### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、各種目の正しい行い方を理解し、動きを持続する能力を高めることができる。
思考力, 判断力, 表現力等	自他の課題を見付け、その解決のために仲間と考えたり、工夫したりすることができる。
学びに向かう力, 人間性等	場や用具の安全に留意し、自己の力を発揮して運動をすることができる。

### 4. 本時の目標

ハンドボール投げの自分の課題を克服できるように工夫し、正しい投げ方を身に付けることができる。

### 5. 授業展開【 本時 】

#### 解決したい課題や問い

自分の課題を見付けて、前回の記録更新に挑戦しよう！

#### 考えるための材料

材料A	材料B	材料C
正しい動きやポイントの提示 足の位置、体の向き、投げる腕の高さ、投げない腕の使い方、腕の振り方、ステップの踏み方を説明しながら、写真やイラストで提示する。	段階練習 実態に合わせて、腕の振り、体の捻転、体重移動、ステップの練習を行う。	投げる高さの設定 目標方向に高さの目印を設ける。

想定される活動	想定される活動	想定される活動
意識することが分かり、真似しながら取り組もうとする。	ボールの飛び方や、仲間や教師からの指摘を受けて自分の課題の動きに気づき、繰り返し練習に取り組む。	目標の高さに投げられているかどうか確認する。

### 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・ペアでお互いの良いところや改善点についてアドバイスし合う。  
「左手が斜め上を指しているいいね。」「ステップを大きく取ろう。」  
「もっと前に投げるにはどうしたらいいのかな。」
- ・教師のアドバイスを聞いて、再現しようとする。  
「体は横向きだね。」「後ろから前に向かってだ。」
- ・体の動かし方を考えながら取り組む。  
「頭より上にセット。」「腕を振る。」

### 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

「ボールを頭の上にセットしてから投げたらうまくできた。」  
「ステップが難しかった。」  
「ボールを高く投げるのが難しかったけど、左手でイメージして投げたら記録が上がった。」  
「〇〇さんは腕の振りが強くて、すごい記録だった。」  
「記録は上がらなかったけど、ステップをうまくできるようになった。」  
「もっと良い記録ができるようにまたやりたい。」